令和２年度堺市医療・病床部会結果の概要

資料６

**１ 地域医療構想の推進に関する意見**

〇それぞれの病床機能区分を二次医療圏で考えようとしているが、三次救急や産婦人科、小児科の領域は二次医療圏で完結できなくなってきており、広域で検討する必要があるのではないか。

〇高度急性期や慢性期については隣接する二次医療圏を含め検討するべきではないか。

〇新興感染症や災害への対応を考えた場合、これまでの地域医療構想による病床割合を見直すべきだと思う。

**２ 病院の将来プランに対する意見・質問等**

1. **公立・公的病院**

　　　●耳原総合病院：（意見）一度に高度急性期を増やすのは無理がある。診療密度の高い救急患者の実態を示した上で継続的に検討していくべきではないか。

　　　　　　　　　　　　　　　（意見）循環器疾患をはじめとする堺市内の重症救急を応需しており、病床機能として認めてよいと思う。

　　　●大阪労災害病院：（意見）高度急性期が全病床に占める割合が高い、また、重症度の高い患者を多く受け入れている他の病院と比較してもその割合が高い。本来の高度急性期に相当する実態を分析すべきではないか。

　　　　　　　　　　　　　　　　　（意見）機能に応じた届出であり、問題ない。

●全体：（意見）急性期と高度急性期の境界は曖昧な部分があるので、現状両者の往来はやむを得ない。

1. **その他、民間病院等に対する意見・質問等**

　　　●堺咲花病院：（意見）休止病床は早期に稼働すべきであり、堺市二次医療圏では少なくとも過剰な慢性期への転換は認めがたいと思う。

　　　　　　　　　　　　　（意見）非稼働病床については、期限を決めて早期の稼働をめざすべきだと思う（新型コロナウイルス感染症の収束の目途がついた後となると思う）。

**３ 保健医療協議会においてプラン等の内容について説明を希望する病院**